



楠の葉

佐賀大学同窓会報 第24号

発行日 2016年1月1日

発行 佐賀大学同窓会

佐賀市本庄町1 佐賀大学 菱の美会館内
TEL 0952-23-1253
FAX 0952-25-5700
E-mail dousoukai@sadai.jp
ホームページ http://sadai.jp/alumni/

編集代表者 吉賀 豊司



学長就任のご挨拶

国立大学法人佐賀大学長 宮崎 耕治

新年、明けましておめでとうございます。

昨年10月1日に、国立大学法人佐賀大学長を拝命しました宮崎です。同窓会の皆様には、平素より本学の運営、特に学生の学習環境の充実及び就職支援等に多大なご尽力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、皆様の母校である本学を取り巻く現状について少しご説明しますと、平成16年4月に全ての国立大学と共に法人化され、現在12年目を迎えました。平成28年度から第3期中期目標期間を迎えるにあたって、国は、国立大学法人に対して、運営費交付金の重点支援を3つの枠組みに分類し、各法人は、強み・特色を明確にした上で、その一つの枠組みを選択し、それに沿った存在意義を示すことを求めています。

佐賀大学は、『特色・強みのある分野においては、世界・全国的な教育研究を行うことを目指しつつも、地域のニーズに応じて自治体や企業に貢献する人材育成や問題を解決するCOC大学』を選択し、佐賀の地域から必要とされる「佐賀のための佐賀大学」いわゆるCenter of Communityとして、地(知)の拠点大学を目指すこととしています。

本学が立地するこの佐賀の地を改めて見直してみますと、福岡、アジアに近く、コンパクトな地形で交通の便が良いなど、地の利に非常に恵まれています。

また、佐賀鍋島藩の葉隠(武士道)の精神が近年改めて見直されているほか、幕末期の佐賀出身の偉人たちの目覚ましい活躍は、世界遺産へと登録された明治の産業革命遺産群からも窺い知ることができます。併せて、明治日本の近代医学発展に大きく寄与した相良知安らを輩出する等、多方

面で誇るべき歴史を有しています。

さらに、来年有田焼創業400年を迎える有田や唐津をはじめとする陶磁器、多彩な人間国宝や多くの伝統工芸品など、芸術に理解のある土地柄と言えます。

このような佐賀ならではの強みを活かし、さらに本学が有する特色を強化するためにも、これからの佐賀大学は、「佐賀の歴史に誇りを持ち、文化度が高く、芸術的素養のある、かつ、社会の変容に対応できる多様性に富む人材を育成」したいと考えています。

来年4月には、文化教育学部を改組し「教育学部」及び「芸術地域デザイン学部」を設置することが認められました。同時に「教育学研究科」及び「経済学研究科」を改組し、「学校教育学研究科(教職大学院)」及び「地域デザイン研究科」を加え、6学部5研究科を備える総合大学となります。これにより、学際的、異分野融合の教育・研究の展開が、今後さらに期待できるようになりました。

これら新学部・新研究科は、実践力ある教員の養成や伝統ある窯業界の更なる発展といった地域からの強い要請に応えるものであり、地元佐賀県の御協力のもと、地域が有する人的・物的資源を最大限に活用して教育・研究・社会貢献に取り組むものです。

このように、これからの佐賀大学は『芸術的感性豊かな、多様性に富むグローバルな視野を持つ地(知)の拠点』を目標に掲げ、大学教職員一同、取り組んでまいりたいと考えています。

同窓会の皆様には、今後とも佐賀大学と皆様の後輩たちに対しまして、格別のご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

支部だより

佐賀市役所支部総会・懇親会

平成27年7月24日(金)に平成27年度佐賀市役所支部総会・懇親会を佐賀市内の「ホテルマリターレ創世 WEST CORT」において、会員35名(会員数:約110名)の参加のもと開催しました。

総会終了後、平地経済学部長、金丸同窓会会長をはじめ来賓12名のご出席をいただき懇親会に移りました。

懇親会では、平地経済学部長、金丸同窓会会長の



ご挨拶、御厨副市長(支部顧問)の乾杯の音頭でスタートし歓談に時を過ごしました。

今年度は、経済学部50周年ということで、参加した市役所職員に学生時代の思い出などのアンケートをとられていました。10月24日(土)に開催される記念式典で、「イマドキとむかしどき学生」のテーマで発表されるとのことでした。どういう違いがあるのか発表内容が楽しみです。

佐賀大学は、佐賀市に所在する「知の拠点」であると共に地域活性化には欠かせない存在です。

今後とも、佐賀大学・佐賀大学同窓会との連携を深め、会員拡大を図りながら佐賀市役所支部活動を継続・発展させていきたいと思っています。

支部長 西川 末実(経済・S53年卒)



宮崎支部発足総会・懇親会

平成27年8月8日(土)12時30分より宮崎市内のホテルスカイタワーにおいて、宮崎支部の同窓会発足総会・懇親会が開催されました。佐賀大学同窓会本部のお力添えで、ようやく宮崎支部発足の運びとなりました。本部から同窓会会長金丸安隆氏、有朋会会長宮尾正隆氏、楠葉同窓会会長江口洋一氏、農学部同窓会会長川副操氏、理工学部同窓会理事中島道夫氏の5名の方々の御臨席をいただきました。

出席者は平成21年卒の若い会員から、昭和35年卒の会員まで、29名(うち女性7名)でした。かたい雰囲気の中「〇〇年卒です。ヨロシクオネガイタシマス……」の言葉掛けから、和やかな空気が見えて来た様に思えました。

総会は、支部代表の挨拶に続いて、本部を代表して金丸同窓会会長から、支部発足への励まし、支部作りへの取り組み、佐賀大学の現況ならびに将来の構想について報告がありました。また、大学にとって同窓会の存在が如何に大切であるか等、感慨深く拝聴しました。続いて、宮尾有朋会会長による経過報告では、支部発足までの紆余曲折が語られました。

懇親会は江口楠葉同窓会会長の乾杯に始まり、差し入れて頂いた農学部特製のお酒と地元の焼酎に舌鼓をうちながら、各学部有志による学生時代の思い出やエピソードなど。中でも、文理学部諸兄による、アイン・ツヴァイ・ドライ…「不知火寮歌」の熱唱で、余興は一気に盛り上がりました。酒杯を交わし、打ち解けた有意義な懇親会となりました。2年後の再会を約し、宴たけなわの中、中島理工学部同窓会理事の閉会挨拶でお開きになりました。

支部代表 池田 昭圭(教育・S35年卒)



福岡地区全学同窓会

20回目になる今回は、平成27年9月18日(金)午後6時30分より、福岡天神の西鉄イン福岡で総勢71名の参加で開催されました。内訳は、教育学部9名、農学部10名、文理学部9名、経済学部31名、理工学部11名、特別参加の本部事務局の篠崎さんです。本部からは、金丸佐賀大学同窓会会長をはじめ、川副農学部同窓会会長、穂屋下理工学部同窓会副会長、江

口楠葉同窓会会長の皆様にご参加頂きました。また、本部から「佐賀大学の物語」「寮歌祭のDVD」「大学案内」などのお土産も全員に頂きました。ありがとうございました。

今回は特に、福岡地区同窓会・前支部長の故大谷希幸(文理・法律 S30年卒)先輩の「1周忌」に当たるため、「偲ぶ会」も兼ねており、また大谷先輩の同窓会活動の集大成でもある『「歌は流れる」発刊記念』にもなりました。(持ち込まれた20冊は完売

しました。)

『出来ることを、手作りで』が口癖だった大谷先輩の遺言を守りながら、当番幹事(9名)を中心に実行委員(16名)がサポートする体制で、今回も4回の委員会を開催し、準備して来ました。

大学オリジナルの酒「悠々知酔」による乾杯で懇親会がスタート。2年ぶりの再会に、会場はあちらこちらで歓談の花が咲き誇っておりました。最長老の成松先輩(文理・経済 S28年卒)から、最若手の中原さん(経済・経営法律 H25年卒)と、老若男女(女性9名)で盛り上がりました。最後はやっぱり「南に遠く」で締め括りました。

次回には、医学部の参加で本当の全学となることを願っております。



実行委員会 委員長 清村 克行(経済・S46年卒)

大分県支部総会・懇親会

平成27年10月31日(土)、大分市内の「大分アリストンホテル」において、大分県支部「豊後はがくれ会」の総会・懇親会を開催いたしました。

同窓会本部から、金丸同窓会長をはじめとする5名の来賓にお越しいただき、支部会員34名(うち女性4名)が参加して盛会に行うことができました。

支部長あいさつ、来賓を代表して金丸同窓会長、宮尾有朋会長にあいさつをいただいた後に総会を開催。総会では1年間の経過報告が承認され、役員改選では牧野支部長、佐藤事務局長を再選し、新たな1年がスタートしました。

続いての懇親会は文理学部OBの谷本先輩の乾杯で開宴。毎年のように参加される方が数名出席できなかったいっぽうで、初参加や久しぶりの参加となった方も数名あり、特に平成卒の若い世代の参加が増えたことを、事務局としてはうれしく思っているところです。

余興として、昨年から取り組んだ「勝ち抜きじゃんけん大会」を今年も開催しました。昨年同様みんな真剣で、今年も熱戦が繰り広げられました。昨年初代チャンピオンに輝き、連覇を目指した宗さんは準決勝で敗退。その宗さんを破った安部さんが今年

のチャンピオンとなりました。安部さんは「来年も参加して連覇を目指します!」と高らかに宣言し、来年の参加を約束してくれました。

また、恒例の巻頭言「南に遠く」を谷本先輩の音頭で合唱。不知火寮を知らない世代には、はじめて耳にする巻頭言や先輩方の踊りはとても新鮮だったようです。

学生時代の昔話や近況報告、仕事や趣味の話など楽しい会話に酒もすすみ、あっという間に時間は過ぎて終宴の時間。来年の総会での再会を約束して散会しました。

まだ見ぬ大分県支部会員の皆さん、来年は是非お会いしましょう。

事務局 佐藤 吉昭(農学・H元年卒)



第22回 東海支部(不知火会)総会・懇親会

隔年で行っています佐賀大学同窓会東海支部(不知火会)の第22回総会が、11月7日(土)名古屋市の名鉄ニューグランドホテルで開催されました。

本年度は、本部から宮崎学長、同窓会長ら6名のご参加をいただき、支部会員14名のもと再会を喜び語らい、楽しい集いとなりました。

総会はずまず支部長の挨拶で「少人数の参加で風前の灯となっていますが、この灯を消さないように続けていきたい。」と決意を述べられ、引き続いて、学長より大学の現況並びに将来構想について報告がありました。また、各同窓会の現況説明に、変わりゆく大学の環境に感慨を深くした次第です。

懇親会は、有朋会宮尾会長のご発声で始まり、出席者が自己紹介を含めた近況や学生時代の思い出を報告し、にぎやかな懇親会となりました。

最後に、副島氏(文理・S35年卒)の音頭でお開きとなりました。

事務局 恒川 幹司(農学・S55年卒)



支部だより

「再起動」長崎支部総会・懇親会

長崎支部が、久しぶりに「再起動」しました。かつて諸先輩たちが築きあげてきた佐賀大学同窓会長崎支部も、活動が停滞して久しく、先輩の中からは再開を望む声も多くありました。

昨年の年末に、金丸同窓会長から長崎支部の活動を求める強い要請を受けて、準備会を重ね、同窓会事務局からの多大なご支援をいただき、無事に開催にこぎつけることが出来ました。

平成27年11月13日(金)18時より、ホテルセントヒル長崎において、佐賀大学の宮崎学長、同窓会から金丸会長はじめ各学部同窓会会長、合計6名の来賓の方にご臨席いただきました。

長崎支部総会の参加は、約50名とやや少なかったのですが、次の拡がりにつなげることを全員が誓ったところです。

冒頭、代表幹事の三藤義文 (S49年理工) が挨拶し、宮崎学長、金丸同窓会会長の祝辞を賜りました。その後、長崎支部長に三藤代表幹事を選出し、副支部長に早嶋保廣氏 (S43年農学)

を指名し、幹事を挙手で求めました。そして支部最年長学年の相田全民氏 (S29年文理) の乾杯の音頭で懇親会が始まりました。

懇親会では、自己紹介で、在学中のエピソードや今だからこそ語れる思い出話が飛び出し、和気あいあいの雰囲気の中で、参加者全員での写真撮影へ続き、最後に支部最年少の中里勇太氏 (H27年理工) の万歳三唱で終了しました。

今後とも長崎支部に対しまして、益々のご支援・ご協力をよろしくお願ひします。

長崎支部会長 三藤 義文 (理工・S49年卒)



諫早支部懇親会

平成27年11月21日(土)、L&Lホテルセンリユウにおいて開催した。

冒頭あいさつの中で、「諫早支部も結成33年を迎えるが、だんだんと懇親会の出席者が減少してきている。出席者を増やすために何か良い方法があったら教えてほしい」との話があった。

今回は、大学より滝澤登副学長が来賓としておいでいただき、大学の現状を説明していただいた。特に「芸術地域デザイン学部」の設置等、佐賀大学が今後発展していくであろうことを話していただいた。

金丸会長からは、各種の面での大学支援、ホームカミングデーや同窓会本部支部の拡大に力を入れていること、長崎では長崎支部(長崎市役所)が本年結成されたことが報告された。

泉副会長の音頭により、本部よりいただいた「悠々知酔」で乾杯歓談に入った。

歓談の途中で宮尾有朋会、江口楠葉同窓会、川副農学部同窓会各会長並びに穂屋下理工学部同窓会副会長より現状報告を頂いた。

歓談では、お互いに杯を酌み交わし、現在の様子や、学生時

代の話等、話が弾んでいた。

今回は出席者が16名と少なかったが、初めての参加者もあり、歓談の中で「だれだれがまだいるから来年は声をかけてぜひ参加するよう呼びかけてみる」という話もいただき、心強さを感じた。

最後に、宮下副会長の万歳三唱で懇親会を終了した。

今回出席いただいた来賓の皆様、同窓生の皆様に感謝いたします。

諫早支部会長 長濱 孝基 (教育・S38年卒)



北九州支部懇親会

平成27年11月20日(金)に、3年ぶりに北九州市小倉北区内のホテルにおいて同窓会本部より金丸安隆会長ほか各学部役員4名をお迎えて開催しました。当支部は45年以上前から活動実績があり、北九州市及び近隣地域の文理、経済、理工の同窓生がいつも30名以上参加していました。その後、いつも参加していた先輩方が亡くなったり、病気のため、次第に参加者が減少し、前回の参加者は11名でした。

そこで、今回初めて農学、教育の同窓生と合同開催とし、案内状を約400名に出しましたが、16名(うち農学2名、教育1名)の参加でした。まず同窓会本部より頂いた佐賀大学ブランド清酒の「悠々知酔」で乾杯しました。皆さんからは「この清酒は大変美味しい。近大マグロのような有名ブランドになってほしい。」と好評でした。そして、慣例である自己紹介を兼ねた3分間スピーチを、来賓を含め全員で行いました。これにより各人の人柄と活動状況が分かり、親近感が深まって、和やかな交歓となりました。

当支部の課題は、世話人の後継者を育ててこなかったため、

世話人が高齢の支部長1人となり、近い将来に休眠支部となる可能性が大きいこと、若い方が出席しても次回から大部分が欠席されること、案内状を出しても、いつも60%以上出欠の連絡がないことです。最後に同窓会本部によるハガキ代の補助を初め物心両面に亘るご支援に深く感謝いたします。

支部長 橋本 朋雄 (文理・S44年卒)



染色教室のこと

文化教育学部 田中 嘉生（教育・S49年卒）

全国の国立大学教育系学部で染色の教室を置いているところは数えるほどしかありません。佐賀大学はいちはやく染色教室の設置を見ました。これは城秀男先生の尽力によるものでした。城秀男先生は、木材工芸の先生として新制佐賀大学に在りましたが、国内留学を契機として染色の道へと進まれました。芸術系の大学にしか見あたらなかった染色の講座を佐賀大学で開き、九州の染色平面表現のメッカならんとし学生の指導にあたり、今日の佐賀大学染色教室の礎を築かれました。当時の城秀男先生の強靱な画面構成から生まれる作品、独創的な表現技法から生まれる作品は、指導を受ける学生はもとより全国の染色ファンを魅了していました。その教室を受け継いだのが小川泰彦先生でした。小川泰彦先生は、デリケートな色彩の諧調を高らかに歌った蠟染め作品を次々に発表していました。その何重をも数える色彩が醸し出す表現で九州染色界に小川泰彦在りと言われていました。城秀男先生が創った佐賀大学染色教室を発展充実させて行ったのは小川泰彦先生でした。そして、城秀男先生と小川泰彦先生は師弟の関係ではありましたが、師弟という言葉では語れない深い人間としての繋がりを持っていました。城秀男先生が居られたから今日の私があると、事ある毎に小川泰彦先生は言っていました。そこには尊敬に裏打ちされた感情に包まれた関係であったことが窺

い知れます。そんな両先生の絶妙な師弟関係は、月1回の染色研究会の作品講評にも現れていました。城秀男先生の手厳しい指導に肩を落としている参加者。そこに優しい言葉で語りかける小川泰彦先生。この2人の先生から醸成される雰囲気は研究会を和気あいあいとさせ、研究会参加者の次への創作意欲をかき立たせていました。そんな研究会の手伝いを田中3年の夏に経験することができました。染色の道への私の第一歩となりました。その時、描きなおし、描きなおした下絵は、今も研究室にあります。

染色平面表現の可能性の追求は、小さいながらも佐賀大学染色教室が目指してきた大きな研究課題です。染色教室の3人目の教員として、この課題と伝統を意識しながら教室を担当してきましたが、近い将来4人目へと引き継ぐことができます。教室の伝統がとぎれることなく、次代へバトンを渡せることで城秀男先生、小川泰彦先生に恩返しのできたかなと思っています。九州に根ざした現代染色の拠点としての役割を、今後も佐賀大学染色教室は担っていくものと思います。そして、さらなる発展も待っていることと思います。平成28年4月より芸術地域デザイン学部が発足します。染色教室は、芸術表現コースの美術・工芸分野の一翼を担います。染色教室にどんな展開が待ち受けているのか。

経済学部版ホームカミングデイを開催！

—50周年記念事業第3弾—

経済学部長 平地 一郎



10月24日(土)午後、約150名の方々の参加を得て、経済学部版ホームカミングデイを開催しました。卒業生、学生そして教職員（OB教員含む）がコラボした1日となりました。参加者の内訳は、以下の通りです。

経済学部版ホームカミングデイ参加者

卒業生	56名
学生	40名
OB教員	16名
経済学部教員	36名
合計	148名

最初に簡単なセレモニーを開き、宮崎学長と江口楠葉同窓会会長から暖かいご挨拶を頂きました。

前半は、羽石准教授が進行役となって、まずはゼミ連委員長額の額田君が、学生の今と昔では生活や勉強やアルバイトそして就活でどういう違いがあるのか、パワーポイントを使って説明・報告しました。それに対して、同窓生から昔の思い出話などが出て、和やかな中にも活発な議論ができました。同窓生の皆さんには、学生の報告の元になったアンケートにご協力頂き有り難うございました。今の学生には大変珍しく映ったようです。また、アンケートの回答の中にあっただお店（食堂や居酒屋）が現在どうなっているかなどを学生が調べて写真まで示したのは、卒業生の皆さんも懐かしく思われたのではないのでしょうか。

後半は、同窓生を囲んで学生が就職についてまなぶ企画としました。具体的には、メーカー、サービス、金融、公務員、会計士の5つの希望就職先ごとの分科会形式にしましたが、各分科会には、同窓生がそれぞれ5名ほど来て頂き、学生がお話を聞きながら、悩みを相談するというものでした。各分科会は20名近かったので、全体で100名ほどの企画となりました（後半の企画にのみ参加した学生が多かったです）。学生にはたいへん好評でした。今後のことについて言うと、就職担当の教員からも、この企画は毎年開いて欲しいという声が強くあります。楠葉同窓会で、ご検討頂ければと思います。

当日までに私たちが準備したものがその外に二つありました。一つは、経済学部の50年誌です（編集責任者：納富元学部長）。卒業生や教員OBから寄稿して頂き、昔の思い出などを中心に作成してあります。もう一つは、卒業アルバムからゼミごとの写真をスライドとして編集したものです（編集責任者：竹村准教授）。BGMも入れて放映しましたが、お気づきだったでしょうか。

さて、本企画は、経済学部50周年記念事業の一環として行いました。その取組の中で、楠葉同窓会の皆さんとも絆が強くなったと感じています。来年は本格的に50周年です。一緒に盛り上げて行けたらと思っています。

医学教育の過去・現在・将来



地域医療科学教育研究センター 小田 康友 (医学部・H3年卒)

2014年12月に佐賀大学医学部地域医療科学教育研究センター教授(センター長)を拝命しました、小田康友です。私は福岡県出身で、佐賀医科大学に8期生として入学しました。卒後は総合診療を背景に、医学教育を主たる専門分野としてきました。

学生時代の私をご存知の方々は、「どうしても小田と医学教育というものが結びつかないのだが…」と首をかしげられるかもしれません。そこはとりあえず、「人は自分に無いものを求めるものですから」というお返事でお茶を濁し、今後の佐賀大学医学部の躍進によってお応えしていく所存です。

日本の医学教育は、この20年で相当の変貌をとげました。かつて卒前の医学部教育は、講義と試験で知識を詰め込み、国家試験に通り返えれば良い、診療にしても研究にしても、実践的な内容は卒業してから入局先で一から叩き込まれるもの、という風潮でした。しかし昨今、医学生が学ぶべき知識は増加し続け(20年前の約3倍!)ている上に、卒業の時点で臨床現場での一定の実践的能力、患者を中心とした思考が身についていることを社会に担保することが求められるようになりました。こういった医学教育の構造的変換に対応するため、2000年代に多くの医学部には医学教育を担う専門部署が設立され、カリキュラムの評価・開発や教員の教育能力の改善、医学生の学習能力向上・学習環境整備等を担うようになりました。

さらに日本の医学教育は、ここから先の10年でもう一段階の大変貌を遂げなければなりません。それは国際的な医学教育の標準に基づいて、本学医学教育の目標、教育方略、評価を再設計し、認証を受けなければならないことです。それができなければ、佐賀大学医学部の卒業生は、海外では医学部を卒業

したとは認められないことになります。

具体的には何が違うのかといえますと、まず、目標というもの考え方が違います。日本において教育目標は、追い求め続ける理念・理想を掲げるものとして設定されがちですが、国際標準における目標は、現場のニーズに基づいた具体的なものであり、目標として掲げた以上、それが養成されるような教育を設定しなくてはなりませんし、それが達成されていることを客観的な証拠を揃えて証明しなければなりません。例えば「患者の意思を尊重する医師を育てる」ことを目標にするなら、卒業生が実際に現場で患者の意思を尊重した医療上の意思決定をしていることを、何らかの形で測定し、客観的に証明しなければならないわけです。

また教育課程も、一般教養をふまえて、基礎医学から臨床医学への系統的教育の後に、臨床実習での応用の訓練という教育課程を重視してきた日本のあり方に対し、国際基準のもとになっている欧米の教育は、あくまでも現場での実践が基盤となっており、そこでの問題に基づいて学生が主体的に学習するものとなっています。これによって、教育目標とそれに基づく教育方略、そして卒業認定のあり方といった、教育のすべてを見直していくことが求められています。

医療が“十年一昔”であるのと同様に、教育というもののあり方・考え方も、大きく変わってきています。旧佐賀医科大学以来の教育先導校としての伝統を受け継ぐ、佐賀大学医学部のもつ高い教育力を生かし、地域医療を志向する質の高い臨床医・研究者・教育者育成の中心的役割を果たせるよう、努力してまいります。皆様のご指導ご鞭撻を、心よりお願い申し上げます。

卒業生へのメッセージ

—機能物質化学科の近況—

21



工学系研究科 循環物質化学専攻 専攻長
(理工学部 機能物質化学科 学科主任)

高椋 利幸

化学科、工業化学科、機能物質化学科を卒業、大学院を修了された皆様におかれましては、各方面でご活躍のこととお慶び申し上げます。

2011年に本記事で、学科および専攻の近況をお知らせ致しまして、早4年が経過いたしました。今回、このページでその後の学科と専攻について少し紹介させていただきます。

ご存じのとおり、名実ともに理学系の化学科と工学系の工業化学が融合いたしましたのは、まさに21世紀となった2001年9月に理工学部9号館が建設され、それまでの住まいであった化学科1号館と工業化学科2号館から全ての研究室が移転し、さらに、2003年4月からJABEEプログラムを取り入れて教育カリキュラムを統一させてからでしょう。そう考えますと、ちょうど干支が一回りし、また新たなスタートを切ったこととなります。

現在、教員の籍は大学院工学系研究科にあり、その所属を専攻名で示します。循環物質化学専攻には22名の教員が所属しています。さらに、機械システム工学科、電気電子工学科と機能物質化学科から組織している先端融合工学専攻に7名の教員が所属し、化学系としては総計29名の教員となります。学生定員は、機能物質化学科90名、循環物質化学専攻27名です。この4年間のうち、佐賀大学生え抜きの教員であった時井直先生、中村博吉先生がご退職になりました。また、本年3月をもって中島謙一先生、野口英行先生、宮島徹先生がご退職になります。情熱をもって研究や教育に携わられた方々が、一度にご退職されることは大きな痛手です。

新聞や様々な報道等で、ご存じのこととは思いますが、昨今の大学を取り巻く環境は、大きく変化しています。入学試験の倍率に一喜一憂しているように、根本は18歳人口の減少にあるのでしょうか。残された教員は一致協力して、これからの学生の教育を行い、先人が築かれた実績に負けないような高いレベルの研究成果を世の中に送り出していかなければならないと心新たに誓っております。そのための強

力な仲間として新しい教員の方々も、様々な大学や研究機関から本学科に移られてきました。お一人ずつ紹介すべきですが、詳細は本年度リニューアル致しました本学科・専攻のWebページでご覧いただくと幸いです(下図がホームページです)。

以前からの本学科の特徴として、ソフトボール大会などを通じた学生と教員とのふれ合いの場があると思います。最近では、入学直後に早く大学の雰囲気慣れてもらうことを目的として、1年生全員と教員で富士町にある佐賀県北山少年自然の家に1泊し、4年間で行いたいことや将来設計を語っています。また、9月末に島原共同研修センターで実施する3年生との合宿研修は今も継続しています。同窓生の方々と同様に、優れた卒業・修了生を社会に輩出するため、時代に合わせた教育を実践するべく日々努力しております。

上記しましたように学科や専攻の様々な情報を発信するWebシステムを改訂しましたので、時折、佐賀大学ホームページから理工学部Web経由で訪問していただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、同窓生の皆様のますますのご発展を祈念いたします。



三者連携によるIT農業の取り組みを始めました

～佐賀県、オプティム、佐賀大学～

農学部 施設農業生産学 田中 宗浩 (生物生産・H4年卒)

この度、佐賀県生産振興部、株式会社オプティム(代表取締役社長：菅谷俊二、以下オプティム)、佐賀大学農学部は、「“楽しく、かっこよく、稼げる農業”を佐賀からITを使って実現する」をキャッチフレーズとして、農業とIT分野における三者連携協定を調印しました。佐賀大学農学部が保有する学術的な知見、佐賀県の農業に関する実用的な知見やノウハウ、オプティムのIoTテクノロジーを融合させ、世界No.1となるIT農業の実現を目指します(2015年8月27日発表)。

本協定のきっかけは今年5月に開催された農学部創立60周年記念式典に菅谷俊二氏を講師として招聘したことです。この時に渡邊農学部長と菅谷氏との間で議論が沸き上がり、農業の課題である「高齢化」「担い手不足」「技術伝承の難しさ」を、ITと農業を融合した新たなサービスを構築して解決を目指すことで意見が一致しました。更に佐賀県が加わり、三者連携協定が締結され、以来、農学部教職員及び学生有志、オプティム、佐賀県が定期的に集合して議論を重ね、短期間で連携ビジョンを創造して具体的な行動を開始しています。

まず、今回のIT農業の柱は、農業ビッグデータの蓄積から始まります。具体的には、マルチコプタ、IoT、ウェアラブルカメラを用いて農業活動記録を蓄積してビッグデータ化することであり、既に、農学部圃場や佐賀県の各試験センターにてデータ化が開始されています。これに対応して、オプティムは世界初ドローン対応ビッグデータ解析プラットフォームを開発し「Sky Sight」と命名して一部運用を開始

しました。「Sky Sight」では、空撮画像をベースにして、農地利用状況、作物の生育診断、病虫害発生の発見と場所の同定、作業履歴の自動記録、これらの知見の活用が可能となる予定です。また、ウェアラブルは農業技術のリモート支援や作業ログの自動化を可能にし、専門技術や経験のリモートシェアリングを可能とするシステム構築を目指しています。同時に、日本で培われてきた農業技術は世界でも名だたる知的財産の集積体であると認識し、これまでの貴重な知見が失われる前に体系的に記録をし、次世代への技術伝承を行うためのプラットフォームとしての整備も手掛ける計画です。

さらには、来年4月から佐賀大学の全学部学生が履修できるインターフェース科目「2年間でできるがばいベンチャー」(2年間、4科目のシリーズ)を開講し、起業家教育、ITプログラミング、知財創造ノウハウを学生に伝えて人材育成にも取り組む予定です。

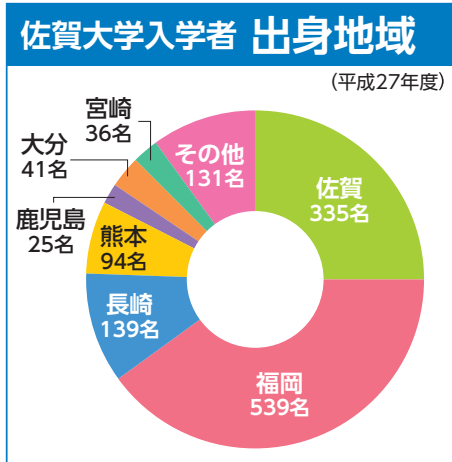
最後に、未来の農業を担う取組として、佐賀発IT農業の実現に御期待いただくとともに、皆様の応援とご協力を賜りますようどうぞ宜しくお願いします。

“楽しく、かっこよく、稼げる農業”
を佐賀から
ITを使って実現する



佐大生データ から 何が見えるか？

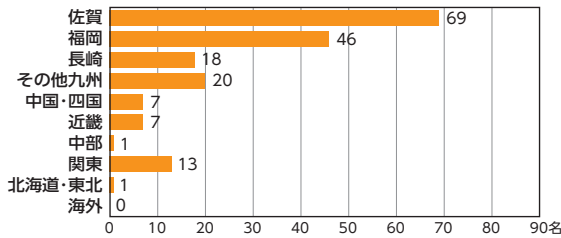
広報誌「かちがらす」のアンケートで、保護者の方からご要望の多かった学生のデータをまとめました。就職の情報や生活費、1週間の学生のスケジュールなど、参考になりましたら幸いです。(広報室)



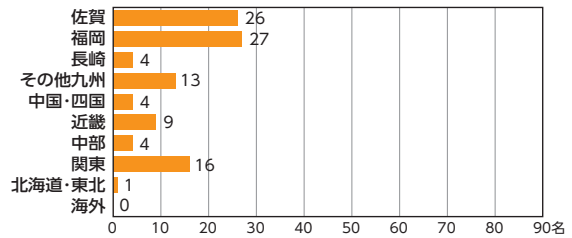
	農業／林業	漁業	鉱業・採石業・砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業・郵便業	卸売・小売業	金融業・保険業	不動産業・物品賃貸業	学術研究・専門・技術サービス業	生活関連サービス業、娯楽業	宿泊業、飲食サービス業	教育、学習支援業	医療、福祉	複合サービス事業	サービス業	公務員	その他	計
文化教育学部	1	0	0	3	8	2	11	3	18	18	4	4	3	7	70	7	2	2	19	0	182
経済学部	1	0	0	10	14	3	10	8	42	41	5	6	9	1	9	4	11	4	36	1	215
医学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	154	0	0	0	2	0	156
理工学部	0	0	0	43	69	6	39	6	11	8	2	4	3	4	12	1	4	5	29	0	246
農学部	5	0	0	4	42	0	3	0	8	2	1	5	2	3	8	3	6	1	11	0	104
計	7	0	0	60	133	11	63	17	79	69	12	19	17	15	99	169	23	12	97	1	903

地域別就職状況 (平成26年度)

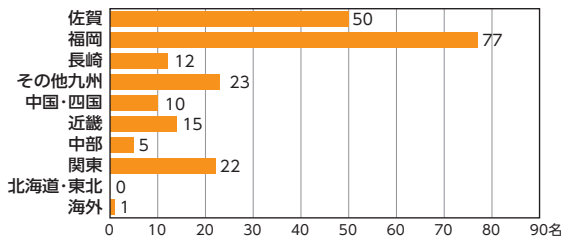
文化教育学部



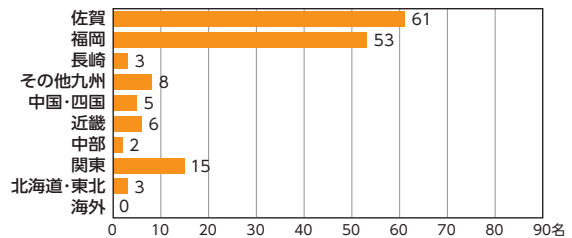
農学部



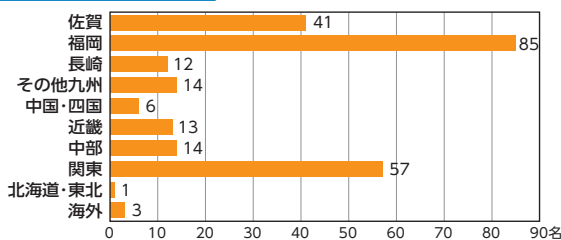
経済学部



医学部



理工学部



おもな就職先

- 文化教育学部： 国公立学校教員／佐賀市役所／佐賀県庁／佐賀共栄銀行／JR九州／損保ジャパン日本興亜／大和証券／日本電気／野村証券／他
- 経済学部： 国税局／佐賀県庁／佐賀県警／福岡県庁／佐賀銀行／佐賀共栄銀行／ゆうちょ銀行／福岡銀行／船井総合研究所／三井住友生命保険／他
- 理工学部： 佐賀県警／福岡市役所／ミツタ／ワイビーエム／松尾建設／九電工／三菱電機ビルテクノサービス／パナソニック／東京地下鉄／東洋鋼板／JR西日本／他
- 農学部： 佐賀県庁／九州農政局／JA佐賀／カルビー／キュービー／ヨコオ／山崎製パン／フジパングループ／久光製薬／化学及び血清療法研究所／他
- 医学部： 佐賀大学病院／九州大学病院／久留米大学病院／福岡大学病院／慶應義塾大学病院／聖路加国際病院／九州がんセンター／好生館／他

佐賀大学広報誌「かちがらす」は以下で閲覧できます。
<http://www.saga-u.ac.jp/koho/>

キャリアデザイン講座

同窓会が講師を派遣してきたキャリアデザイン講座も今年で11年目を迎えました。本年度は、「公務員としてのキャリアデザイン」、「教員としてのキャリアデザイン」、「民間企業でのキャリアデザイン」に3名の講師を推薦しました。受講生は、先輩の体験から発せられるメッセージを、熱心に聴き入っていました。

「公務員としてのキャリアデザイン」 11月18日

講師：楠田 詞也氏（経済学部 平成23年卒）
（佐賀県 健康福祉本部 健康増進課 勤務）

佐賀県採用試験の難関である特別枠で入庁された楠田さんは、経済学部を平成23年に卒業し今年で5年目。ご自分の仕事内容を詳しく紹介しながら、公務員の仕事の多様性を説明してくれました。「いま心がけておいてほしいこと」として、「考えてすごすこと＝周りに流されず自分で考えて行動することが重要」、と熱いメッセージを送られました。



楠田 詞也
（経済学部H23卒）

「教員としてのキャリアデザイン」 11月25日

講師：田中 孝氏（教育学研究科 平成23年修了）
（佐賀市立新栄小学校 教諭）

Mr.Childrenの「足音」が大好きだという田中さんは、「人とのつながり」—大学の仲間、アルバイト、ボランティア等を通して—が人生の糧になるという話をされました。また、飴玉を使った算数の模擬授業を再現して、子供たちをひきつける術が披露されました。後輩には、「大学時代は色々な経験をして視野を広げてほしい！」と先生から熱いメッセージが送られました。



田中 孝
（教育学研究科H23修了）

「民間企業でのキャリアデザイン」 12月2日

講師：稲富 純一氏（工学系研究科 平成21年修了）
（三菱日立パワーシステムズ エンジニアリング本部 電力プラント総括部）
（電力プラント技術部 長崎プラント設計課 勤務）

学部3年生のときに奮起して、それ以降授業は最前列で受講。池上研究室（海洋エネルギー研究）で国際学会での発表や受賞も複数経験されている稲富さんは、現在プラントエンジニアとして火力発電所を作られているそうです。後輩へのアドバイスとして、「就職試験に臨むときの条件として、客観的な事実でアピールすることが重要」と話され具体的には、①成績を上げること（学生として最低限必要なこと）、②実績（学会、表彰）、③定量的な数字（TOEIC、SPI）④資格等を挙げられました。就職試験の裏話、仕事と余暇の上手な切り替え方についても話してくださいました。



稲富 純一
（工学系研究科H21修了）

第18回 佐賀大学大学祭

平成27年11月7日(土)、8日(日)の両日におきまして、第18回佐賀大学大学祭を佐賀大学本庄キャンパスにて開催致しました。来場者の方はもちろんのこと、今回の大学祭に関わって下さった多くの方々にこの場をお借りして心からお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

さて、今回の大学祭では、「どぶろっく」さん、「スパローズ」さんによるお笑いライブや、幅広い年齢層の方に楽しんでいただけるビンゴ大会等、様々な企画を特設ステージにて行いました。

また、ステージ外でも佐賀大学の各団体による模擬店の出店や、普段の活動の成果を公に発表する場を設けるなどと、数多くの催しを通して佐賀大学生の活気あふれる姿を多くの方々に感じ取っていただけたのではないかと思います。

今回の大学祭を無事に終えることが出来たのも、学園祭中央実行委員会のみなをはじめ、OB・OGの皆様、ボランティアの皆様、

ご協力いただいた企業の皆様、学校関係者の皆様、地域住民の皆様、大学祭にお越し下さった来場者の皆様、などと挙げ出したらきりが無い程の多くの方々の支えがあったからだと深く感じております。「私たちは多くの方々に支えられて大学祭を行うことが出来ている」ということを忘れることなく、今後とも素晴らしい大学祭を信頼できる後輩たちが作り上げてくれることを願っています。

今後とも学園祭中央実行委員会を宜しくお願い致します。



同窓会の動き (H27.7～H28.2)

- 7.23 佐大同窓会「臨時代表役員会」
- 24 佐賀市役所支部総会・懇親会/ホテルマリタレ創世
- 8.1 佐大同窓会「佐賀県内地区世話人会」/夢の美会館 多目的室
- 8 宮崎支部発足総会・懇親会/ホテルスカイタワー
- 30 神埼地区会発足総会・懇親会/割烹はちや
- 9.10 佐大同窓会「第3回代表役員会」
- 18 福岡地区全学同窓会/西鉄イン福岡
- 10.8 佐大同窓会「第4回代表役員会」
- 15 佐大同窓会「秋期定例役員会」
- 31 大分県支部総会・懇親会/大分アリストンホテル

- 11.7 東海支部総会・懇親会/名鉄ニユーグランドホテル
- 13 長崎支部総会・懇親会/ホテルセントヒル長崎
- 14 第23回佐賀県青春祭歌祭/エスプラッツホール
- 18 キャリアデザイン講座/講師 楠田 詞也氏
- 20 北九州支部懇親会/小倉リーセントホテル
- 21 諫早支部懇親会/L&Lホテルセンリユウ
- 25 キャリアデザイン講座/講師 田中 孝氏
- 28 伊万里地区会発足総会・交流会/伊万里公民館
- 12.2 キャリアデザイン講義/講師 稲富 純一氏
- 6 佐賀市地区会発足総会・懇親会/グランデはぐくれ

- 12.10 佐大同窓会「第5回代表役員会」
- H28
- 1.1 佐大同窓会会報「楠の葉」No.24発行
- (予定)
- 1.23 唐津地区会発足総会・懇親会/志道公民館・交洋
- 31 小城・多久地区会発足総会・懇親会/寿屋別館
- 2.12 佐大同窓会「第6回代表役員会」

ご意見
メール
等募集

会報についてのご意見をお寄せいただく場合は、郵送のほか電話またはE-mailでも受け付けております。

住所変更等
ご連絡の
お願い

住所等が変更になられた場合は、必ず同窓会事務局へご連絡ください。
Tel : 0952-23-1253 Fax : 0952-25-5700
E-mail : dousoukai@sadai.jp